



浙江省杭州市にあるアリババ本社＝A P

# 中国アリババ 米で上場へ

## ネット通販最大手、FBに調達額匹敵

中国のネット通販最大手、アリババグループは16日、米国の株式市場での株式上場準備を始めたと発表した。年内にも申請すると見られる。伸び盛りの中国ネット通販市場で圧倒的なシェアを持つ同社の上場による調達額は、フェイスブックなどに匹敵する規模となる可能性がある。

上場時期を含めて詳細は未定だが、中国メディアは「上場で時価総額は1千億ドル(約10兆円)に達し、調達額は150億ドル(約1.5兆円)を超えて過去最大規模となる可能性がある」と報じる。同じネット業界のフェイスブックが2012年に調達した際の184億ドルや、10年に自動車大手ゼネラル・モーターズ(GM)が再上場した231億ドルに匹敵する規模がうわさされる。

調達した資金は、現在も活発に繰り返している買収資金などにあてると見られる。世界が注目するのは、年率5割以上の速度で急



長する中国ネット通販市場で、盤石の地位を占めるアリババの潜在力だ。

1999年に元英語教師の馬雲(ジャック・マー)氏が企業間の電子商取引サイトから創業した同社は、その後、消費者向け通販にも進出。企業が出店する通販サイト「Tモール」は国

### ソフトバンク、出資37%

## 含み益3兆円規模

創業期のアリババのスポンサーとなったのが、日本のソフトバンクだった。孫正義社長が馬氏の事業の将来性を見込み、わずか数分で約20億円の出資を決めたとの逸話が残る。

ソフトバンクは今も、アリババグループへの出資比率が約37%ある。上場によってアリババの時価総額が1千億ドル規模になった場合、ソフトバンクには3兆円にも達する巨額の含み益

内シェアが約50%、個人も出店できる「タオバオ」はこのジャンルでのシェアが9割を超える。通販サイトの流通総額は12年で1.1兆円(約18兆円)に達し、米アマゾンや日本の楽天を大きく上回る。

傘下には、通販の売買代金を決済するサイトとして出発した「アリペイ」もあり、少なくとも3億人がこのサイトの口座を持っていると見られる。

がもたらされ、買収を繰り返す同社の財務基盤の安定に役立つと見られる。17日の東京株式市場では、同社の株価が5%近くもはね上がった。

アリババは一時は香港市場での上場を検討してきたが、幹部に一般株主よりも大きな権限を持たせる同社の「パートナー制度」が認められなかったため、米国での上場に切り替えた。

(北京＝斎藤徳彦)